

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年6月7日(火)

《神様の栄光を現す ―優しい心で、善く生きましよう―》

今日の福音(ヨハネ 17・1 - 11a)を聞いて、何を思いましたか。今日私の目に留まったのは、「**あなたの栄光を現す**」という言葉でした。『神様の栄光を現す』とは、どういうことでしょうか。そして真ん中あたりには「**あなたが与えてくださった業を成し遂げて、**」という表現もあります。この言葉は、どういう意味でしょうか。

「イエス様を信じることになって祝福をたくさんいただき、家族みんなが健康で、失敗だった仕事もよくなった。」そういうことが『神様の栄光を現す』ことになる、と思う人がいるかもしれません。また、「立派な、素晴らしい聖殿を建てるのが神様の栄光を現すことだ。」と思い、頑張って立派な聖殿を建てる人もいます。「一生懸命にみ言葉を述べ伝え、たくさんの人々に宣教したから、神様の栄光を現した。」と思う人もいます。皆様はどう思われますか。『神様の栄光を現す』とは、どういうことなのでしょう。その答えは、イエス様のみ言葉から探さなければなりません。

先ほども申し上げたように、イエス様は「**あなたが与えた業を成し遂げた**」とおっしゃいましたね。では、『与えられた業』とは何でしょうか。イエス様は、輝く栄光の席に座ろうとはしませんでした。人から褒められることは喜びませんでした。そして、疎外されている人々、弱い立場の人々、いつも助けを求めている人々の味方になり、いつも彼らのために何かをしました。しかし、その結果はどうでしたか。十字架を背負って『ゴルゴタ』という岩だらけの山を登り、十字架につけられて死んでしまいました。自分の全ての精神と心を注いだ弟子たちからも裏切られる生き方をなされたのです。それでもイエス様の口からは、「私はあなたからいただいた業を成し遂げました。」という言葉が出されました。それは、『神様の栄光』というものは、輝くような何かによって現すものではないことを示しています。

「私はいつも信仰を持ちながら神様の栄光のために走って来ました。」という方がいらっしゃるかもしれません。それが悪いことだとは思いません。ただ、それは本当に神様の栄光を現すためだったのでしょうか。自分の利己的な動機でしたことではないのでしょうか。それは、私たちが死ぬ時まで振り返って見なければならぬことだと思います。

人間の弱さの一つは錯覚することです。錯覚したことが真実になってしまい、そのために命もかけてしまうのが、人間の愚かさです。だから、私たちが本当に見極めなければならないのは、「それが真実であるかどうか」です。聖書を読み、「み言葉を理解しています。」と言いながら、実際には正反対の道を歩んでいたら、それはやりなおすべきでしょう。

では、どうすれば神様の栄光を現せるのでしょうか。一言で申しあげます。それは、「優しい心で、

善く生きる”ことです。『善く生きる』というのは、失敗しないことではありません。「失敗しても間違えても、神様のみ旨に適う生き方をする。」という強い意志を持ち、そのために努力して実行することです。もし私たちが、真実に向かって正しく歩もうとすれば、神様は絶対に知らんぷりはなさらないと信じます。必ず手を伸ばして導いてくださいます。信仰には、何よりも純粋な心が必要なのです。損得の計算は要らないのです。それを意識しましょう。

今日の第一朗読(使徒言行録 20・17 - 27)で使徒パウロが本当に激しく、「わたしには責任がありません。わたしは、神の御計画をすべて、ひるむことなくあなたがたに伝えたからです。」と話しています。これは怖い話です。なぜならば、私たちは御計画について全て分かっているからです。知らなくて間違えたのならいいのです。赦されます。しかし私たちは全部知っています。何が正しいか、何が望ましいか、何が美しいか、全部分かっています。分かっているのにそれが出来なければ、使徒パウロのように「私は全ての仕事を果たしたから責任はありません。後のことは神様の責任でしょう。」とは言えません。これは、私たちが心に刻むべきみ言葉ではないかと思えます。

皆様、本当に優しい心、純粋な心で、よく生きられるように頑張りましょう。

ありがとうございました。